

2015年4月

ご挨拶

患者は医療に何を期待し、何を求めているのか。患者が求めるのは病気を治すことである。しかし、治らない病気も多々ある。治る経過が著しく長く、不安が強くなることもある。同時に、患者だけでなく、運命共同体である患者の家族も不安と葛藤を持つことになる。

嘗て、医療は患者の病気の治療が主体であった。時代の変遷と共に病気が治療されなくても病気に伴う身体的苦痛に対してケアが行われる。今日、医療技術は著しく進歩している。不治の病とされていたがんも治療され、延命が可能となっている。さらに、身体的な治療とケアから、患者と家族への精神的・心理的ケアのニーズが日々増大し続けている。家族への精神的・心理的支援に関するより高度な知識と技能が必要である。治療を担ってきた主治医だけではなく、人の心に対応する専門家が必要である。また、そのニーズは患者と家族の不安が長期化する前から対応が必要である。多職種、特に人の心を扱う臨床心理士、診療医、精神科医、看護師、薬剤師などによる強力な支援チームを構築し、即時に対応できるシステム作りが必要です。

患者と家族への精神的・心理的支援のニーズは日本においては特に日々増大し続け、医療者には患者と家族への精神的・心理的支援、苦悩の解放に関するより高度な知識と技能の習得が必要である。本学術総会では、これらの実態を相互に共有し、想像力、理解力およびコミュニケーション力に関する様々な関連分野の方々のご意見を拝聴し、患者と家族の求めている信頼され、満足される医療へ改善する方策を目指しています。多くの方々の参加を期待しております。

第1回患者・家族メンタル支援学会学術総会 共同総会長
畑埜義雄